

発達のとまとめ



今年も梅雨明けとともに暑い夏がやってきました。そして育成会が一年中で一番活躍しなければならぬ時になったのです。役員さんにとっては大変な夏になるので

す。
今まで子ども会(子どもクラブ)のことを子どもの発達を中心に書いてきました。ここで中間のまとめをしたいと思います。
一、子ども会は幼児から中学生くらいの幅で組織するのがよいが、活動の中心は五・六年生の時期とすることがよいと思いません。
二、幼児、小学校一・二年生は活動の準備期で、中学生は自分に目覚める時だから活動にちがいがあってよいのです。
三、幼児は遊びは下手でも、遊

ぶことにより、自己中心的な行動が少なくなり、社会性が育ってきます。自分の外に他人のいることを体で覚えることができず、だからなるべく子ども会の中に入れるようにしたいのです。
四、小学校の一・二年生も遊びは下手ですが、子ども会には必ず入れてもらいたいです。
五、小学校の三・四年生は子ども会の中堅にして良心をつくり、自我が生まれるようにします。
六、小学校五・六年生は仲間意識に支えられて集団の中心となって指導ができるようになります。
以上のような発達を考えて子ども会をつくり、活動をしてもらいたいです。活動をやるに当たっては、計画から実行まで「子どもにまかせる」ことを基本にしたいのです。親や大人がいると世話をやくことは子どもが請負うことになって子ども自身の活動になりません。大人が与えたレールの上をただ走らせるのと、子どもが自分から運営し活動するのでは効果に大きなちがいができます。それは放任ではなく、自発性を育てることにつながります。自発性は、子どもが興味・関心を示し、自分でするのであるという気を起こすことによつて育つのです。親は遠くから見守っているという状況にした

今月のかっこいい

八月の花「イワタバコ」

どうせ生えるのなら、もう少し日当りのよい、肥えた土のたくさん



んある所に生えればよいのにと思いますが、このイワタバコは、日当りのわるい、岩のわずかなすき間に根をのびて生きています。冬には、葉を丸くかため、毛におわれた塊のような姿で寒さをやりすごします。それだけにこの植物が生きていくことの大変さが思われます。市内であそこにあつたここにあつたときいて、行ってみるとないのは、人間がこの可憐な花を追いつめてしまったようで、申しわけなく思えるのです。
都留文科大教授
森江 晃三

森江 晃三

都留文科大教授

教育相談室

(43) 1111 内線214

小山田出羽守信有(下)

戸石くずれと名付けられた戦いでは、武田軍の大敗で郡内勢も手痛い打撃をうけました。
難攻不落の戸石城攻めは、無理な攻撃で、出羽守信有は先鋒をつとめ、新田次郎の小説によれば、鉄砲隊を指揮して城中にのり込んだのでした。
しかし、梯子登攀では後続困難で、白兵戦となり、甚大な打撃を受けて後退したものの、出羽守信有自身も大けがをするという羽目になったのです。
また、鉄砲隊ではなく、投石隊であったとする史家もありますが、妙法寺記によりますと、粗悪な鑄貨の流通を止めるため、しばしば撰銭が行われたことを記録しているのです。悪貨を鉄砲玉の鑄造に使用したことが十分に察せられます。
君主として大事なたしなみのひとつに音曲があります。
信玄、謙信、信長、秀吉、家康、政宗らの戦国時代の名だたる武将のたしなみに謡曲や能があったことが知られています。
出羽守信有も能をたしなみ、君主としての教養をもった人でした。
勝沼大善寺文書の中には、出羽守信有が、五百人もの宝生、大藏両座を引きつれ、大善寺で三日間通しての能の大興業を行ったことが

小山田シリーズ

小山田出羽守信有

記されています。
目的は興業収入をもって大善寺の大修造を行うことであつたのですが、晴信はもちろん、老若男女、身分上下を問わず、大群衆が押しかけ、立錫の余地のない程の賑わいで、そのために改修費が賄えたと記録されています。
まさに出羽守信有の教養と力を示した痛快事といえましょう。
相州小山田原から刀鍛冶の元近を呼び、打たせた刀を法能の生出神社をはじめ、郡内三十六の神社に奉納しているのを見ると崇敬心の厚い人でもあつたようです。
国中では京榊三升で大榊一升とするのに、郡内は京榊二升五合で大榊一升とする郡内榊があります。が、生産性の少ない郡内の人々が国中に引け目を感じないようにとられた策とも言われ、また、税制の優遇処置だともいわれています。
晴信をたすけ、晴信と共に信州攻略に明け暮れた出羽守信有は、おそろく戸石くずれの戦いで受けた傷がもとで再起不能のまま、天文二年正月早々、郡内領主としてわずかに十年、若くしてこの世を去つたのでした。
妙法寺記には、葬送者一万人、郡内一の葬儀であつたと記していません。
治世が短かつたにもかかわらず、民衆からも信望厚い領主であつたことをうかがわれます。
長生寺に葬られ、常胆院桃陰宗源大禅定門と諡されています。

記されています。
目的は興業収入をもって大善寺の大修造を行うことであつたのですが、晴信はもちろん、老若男女、身分上下を問わず、大群衆が押しかけ、立錫の余地のない程の賑わいで、そのために改修費が賄えたと記録されています。
まさに出羽守信有の教養と力を示した痛快事といえましょう。
相州小山田原から刀鍛冶の元近を呼び、打たせた刀を法能の生出神社をはじめ、郡内三十六の神社に奉納しているのを見ると崇敬心の厚い人でもあつたようです。
国中では京榊三升で大榊一升とするのに、郡内は京榊二升五合で大榊一升とする郡内榊があります。が、生産性の少ない郡内の人々が国中に引け目を感じないようにとられた策とも言われ、また、税制の優遇処置だともいわれています。
晴信をたすけ、晴信と共に信州攻略に明け暮れた出羽守信有は、おそろく戸石くずれの戦いで受けた傷がもとで再起不能のまま、天文二年正月早々、郡内領主としてわずかに十年、若くしてこの世を去つたのでした。
妙法寺記には、葬送者一万人、郡内一の葬儀であつたと記していません。
治世が短かつたにもかかわらず、民衆からも信望厚い領主であつたことをうかがわれます。
長生寺に葬られ、常胆院桃陰宗源大禅定門と諡されています。